

立命館守山中学校・高等学校 2020年度 学校目標 年度末報告シート

区分	A. 課題 (上位目標)	B. 目標 (中位目標)	C. 達成目標 (当年度目標)	D. 自己評価	E. 具体的施策 (どのような方法で)	
教育目標	立命館守山中学校・高等学校は、立命館憲章に掲げる「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成」を教育目標とし、優秀な「グローバルサイエンサー」を輩出する「滋賀県No.1の教育力を持つ学校」づくりを目指す。		①滋賀県のトップスクールの地位を確固たるものとする学校づくり ②新しいコース再編とカリキュラム高度化 ③課外活動での大学連携強化と学術文化活動の強化 ④広報強化と制度改革による安定した入試政策の確立 ⑤学校全体が一丸となって課題を推進する教員組織整備 ⑥ICT活用教育展開を中心とした施設整備・充実			
	中期目標					
	中期目標					
教学課題	I 確かな学力と主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成	1 確かな学力の育成	(1) 外部指標に基づく学力の伸長 (2) 家庭学習習慣の定着 (3) 高校FTコースを中心とした難関大学合格者の輩出	○ ○ ◎	① 英検・TOEFL・学推・模試等の結果を検証 ② Classiの学習時間入力の指導を実施 ③ 成績不振生徒への面談・緻密な支援 ④ FT生対象の特別講座開講・自習室保障	
		2 主体的に学び・考える姿勢の育成	(1) 探究学力の向上 (2) 中高大接続による探究授業の充実 (3) コンクール入賞や社会的活動に取り組む生徒の輩出	○ ○ ◎	① 「共創探究科」の設置と体制づくり ② R-Style公開授業研究会の開催 ③ 中学総合学習の内容・体制の充実 ④ GPSアカデミックの実施と検証	
		3 「学びを止めない」ためのICT活用の充実	(1) オンライン授業の実施 (2) 個別最適化学習の充実 (3) 校内ICT設備の機能強化	◎ ○ ◎	① 教員のZoom活用方法の習熟 ② 緊急時において即座に対応できる体勢づくり ③ 既存のAIアプリ教材の調査を実施 ④ 校内Wi-Fi容量の拡大	
	II 科学的素養とグローバルな視点を備えたりーダー生徒の育成	1 サイエンス教育の充実と科学的素養の涵養	(1) 理系課題研究の質的向上 (2) 第3期SSH中間評価での高評価獲得 (3) 学内推薦における理系進学者確保	◎ ○ ○	① 共創探究科を通じた課題研究指導の系統化 ② 生徒の中間発表時の大学関係者の参加促進 ③ SSH中間評価に向けたJST訪問時の対応準備 ④ 大学理系学部教員との連携強化	
		2 高い英語運用能力とグローバルな視点を育成	(1) 英語運用能力の向上 (2) 生徒の異文化体験の充実 (3) 国際教育プログラムの開発と高度化	○ ◎ ◎	① 中3英検3級、高3TOEFL400達成に向けたサポート ② コロナ禍における留学代替企画の充実 ③ 留学説明会の確実な実施 ④ 海外校との教育連携プログラムの開発	
		3 大学連携による特色ある教育プログラムの充実	(1) 大学でのAP授業の実施 (2) 希望学部選択のための支援充実 (3) 立命館社会起業家育成プラットフォーム連携の強化	○ ◎ ◎	① グローバルAP・サイエンスAP連携学部との協議 ② オンラインを活用した学部説明の実施 ③ キャリア部を中心とした生徒支援体制の確立 ④ 総長ピッチ等イベントへの参加促進	
	III 18歳成人を見据えた自立した豊かな人間性を備えた生徒の育成	1 オープンマインドの醸成と生徒自らが主人公と思える学校運営	(1) 生徒自らが参加を実感できる取り組みの実施 (2) 学園祭や体育祭での組織運営を通じた主体性涵養 (3) 生徒会やHR委員会など生徒役員の力量向上	○ ○ ◎	① コロナ禍での登下校スタイルの自由化実施 ② 制服のあり方についての生徒会役員と生徒部教員との協議実施 ③ 生徒会役員と校長との懇談会の実施 ④ 教員と生徒との対話を通じた信頼関係のいっそうの深化	
		2 生徒の課外活動・社会貢献活動の充実	(1) 学校クラブ活動運営方針に則った組織運営 (2) 社会とのつながりを意識させる社会貢献活動の展開 (3) クラブ活動における高い実績の創出	◎ ◎ ○	① 効率的・科学的なクラブ活動実施のための教員研修会実施 ② クラブ活動における成果の学校内外での情報共有 ③ 個人で成果を挙げている生徒の活動事例の情報共有 ④ クラブ活動の練習環境の整備	
		3 人権意識・社会性の涵養	(1) いじめをはじめとした人権侵害に対する意識改革 (2) コロナ差別等、現代的課題に対する啓発 (3) ネットやSNSによる人権侵害への意識改革	○ ○ ○	① いじめの早期発見、適切な対応のための情報共有の徹底 ② 生徒がネットいじめについて学ぶ機会の設定 ③ 豊かな感性を育む鑑賞行事の実施 ④ 中学道徳授業の教材開発と充実	
	管理運営課題	I 生徒が安心・快適に学ぶことができる学校環境づくり	1 支援が必要な生徒への適切な対応	(1) こころとからだの健康に配慮した適切な指導・支援 (2) 教育相談・養護教諭・カウンセラーとの綿密な連携 (3) いじめに対する認識・理解の充実、早期発見・解決	◎ ○ ○	① いじめ対策委員会・教育相談担当者会議の定期開催 ② Hyper-QU調査の実施と分析 ③ いじめに関する教員研修会の開催 ④ 養護教諭・カウンセラーとの日常的な情報共有
			2 リスクマネジメント力の強化	(1) 避難訓練の実施と防災対策の強化 (2) 海外引率時における安全確保策の確立 (3) スポーツ活動におけるATCとの連携による事故対応	○ ○ ○	① 目的を明確にした避難訓練の実施 ② 法人と連携したリスクマネジメント委員会の開催 ③ 海外研修に備えた危機管理会社との連携 ④ 法人派遣ATC（アスレチックトレーナー）との定期協議の実施
			3 新型コロナウイルスに対する対応	(1) 生徒の安全・健康を第一に置いた適切な対応の実施 (2) 学校のあらゆる活動における感染防止対策の徹底 (3) 生徒・保護者への迅速な情報の提供	◎ ◎ ◎	① オンライン授業の迅速な実施を可能とする体制整備 ② 消毒・体温測定等、校内における感染防止対策の具体化 ③ マスク着用等、生徒に対する指導の徹底 ④ Classiによる生徒・保護者への学校予定の迅速な連絡の実行
II 地域や社会から信頼される学校づくり		1 保護者・同窓生との連携	(1) PTA役員・執行部懇談の実施 (2) 保護者アンケートによる実態把握と改善 (3) 早苗会役員との懇談の実施	◎ ◎ △	① 重要事項についてのPTA役員への事前情報提供 ② PTA役員と執行部による懇談の適宜実施 ③ 保護者アンケートのWebによる確実な実施 ④ 生徒表彰等の機会に早苗会役員と執行部の懇談を適宜実施	
		2 生徒募集の成功	(1) 定員確保、中学志願者増、高校GT併願入学者増 (2) 入試広報での発信力強化 (3) 入試執行・運営における合理化効率化	◎ ◎ ◎	① 志願者増をめざす入試日程・方式の変更 ② 入試広報におけるWeb発信の充実 ③ 生徒主体の動画プロジェクトの展開 ④ 入試情報システム、採点支援システムの活用	
		3 新たな学校づくりをめざす2030将来構想計画の策定	(1) R2030チャレンジデザインの策定 (2) 当面の教育課程・教育システムの具体化 (3) 法人検討委員会における施設設備計画の具体化	◎ ○ ◎	① 校内教育政策委員会における議論の活性化 ② 校内意見集約による合意形成 ③ 将来構想に関する教員研修会の開催 ④ 法人一貫教育部・財務部・管財課との情報共有	
III 教育の質的向上を支える教員力量の向上と働き方改革		1 魅力ある教育を支える教員の力量の向上	(1) 相互の授業公開や研修を通して学び合う文化の醸成 (2) 校外各種研修への積極的参加促進と成果の共有 (3) 教育実践の校外への積極的発信	○ ○ ○	① R-Style公開授業研究会の開催 ② 校外研修参加ガイドラインの策定 ③ 授業評価アンケートを活用した自己検証 ④ 法人研修センターとの連携による情報提供	
		2 教員集団としての組織力・チーム力の向上	(1) チーム担任制のメリットを活かした多面的指導充実 (2) 教員間での「報連相」の徹底と課題の共有 (3) 経験の浅い若手教員への支援・配慮	◎ ○ ○	① チーム担任制の実施と効果検証 ② 問題事象の日常的な情報共有と複数対応 ③ ICT機器を活用した情報共有の促進 ④ 学年・コース・分掌内での支援体制確立	
		3 教員の働き方改革と働きがいのある職場環境づくり	(1) 勤務時間管理の確実な遂行 (2) 短期的・中期的な業務改善の実行・検証 (3) クラブ活動指導員やサポートスタッフ制度の確立	◎ ○ ◎	① 勤務管理システムの円滑な運用 ② 勤務管理担当者間での情報共有と臨機応変な対応 ③ 労働者代表との定期的な意見交換の実施 ④ 新たなスタッフとの適切な業務分担と信頼関係構築	

達成状況	<p>(1) 2020年度は、新型コロナ感染症拡大に対して、生徒の生命や健康・安全を守り、感染拡大防止の社会的責任を果たすことを最優先に教育活動に取り組んだ。生徒の通学圏が広範囲に及ぶことから、政府の緊急事態宣言や近隣自治体の情勢を踏まえた迅速な対応を行った。同時に、生徒の学びを止めない、心身の健康を守ることに十分配慮し、ICT機器や学習支援アプリ、Web会議システムを活用したオンライン型の遠隔授業や生徒面談を実施、臨時休校期間において大きな成果を上げた。Zoomやロイノート、Classiなどの学習支援アプリによる多様な学び、同時双方向でのやり取りを可能にしたオンラインライブ授業は、生徒の反応も9割以上が肯定評価で、ICT教育先進校としての実績が奏効した。</p> <p>(2) 2030年を見据え、新たな価値を創造し社会に貢献する「Game Changer」の育成、「学びの内容・方法・空間」の観点による学びの再定義を軸に、将来構想のチャレンジデザインを策定した。同時に、教科科目を基礎と探究に大別、学びのスタイルを個別化・協同化・プロジェクト化・社会実装化に定式化し、対面とオンラインを融合した学びの高度化の取り組みを開始した。特に、基礎学力の定着については、AI学習アプリの活用により、生徒一人ひとりの能力や適性に合った学びの個別最適化実現に向け、立命館大学・atama plus株式会社との共同実証研究（全国初）を開始した。</p> <p>(3) 理工系・文系系意欲層を育成する高大接続プログラム「サイエンスAP」「グローバルAP」を開講した。コロナ禍により、大学キャンパスでの実施が不可能となる中、大学教員や学生・院生の専門的指導、大学院超創人材育成プログラム・立命館SDGs推進本部・立命館社会起業家プラットフォーム（RIMIX）などの支援を得て、生徒の課題研究やプロジェクトの質が大きく向上、総長ピッチや全国レベルのコンテストで活躍する等の成果が出た。</p> <p>(4) 高校FT（フロンティア）コースでは、朝日新聞社連続講座やニューヨーク・グローバル研修など、多様なカリキュラムの開発に取り組んだ。難関大学合格実績も京都大学5名、神戸大学3名、滋賀医科大学医学部医学科1名等、成果を挙げた。国公立大学や医学部医学科への合格率は50%近くに達した。</p> <p>(5) 生徒募集においては、中学で志願者数が前年度比2割増の767名、かがやき受験者が143名に到達し（両方とも過去最高）、高校も一般推薦受験者が110名と堅調であった。特に、高校FT併願入学者の歩留まりが想定の2倍となった。</p>
------	--

改善策	<p>(1) 今後、全ての教科・科目が、「基礎・探究」、「個別化・協同化・プロジェクト化・社会実装化」の観点から、生徒の主体的な学びを実現するための授業改善を促進する。</p> <p>(2) 生徒の主体性、自治意識を伸ばす取り組みの到達をふまえ、生徒会やクラブ活動を通じていっそうの本格化・実質化をはかる。</p> <p>(3) 生徒の発達課題への支援、いじめの早期発見や適切な指導を行うための体制をいっそう強化する。その一環として、スクールソーシャルワーカー等の配置を行う。</p> <p>(4) 教員の勤務管理の確実な遂行、業務改善のための中期目標の具体化をはかる。</p>
-----	---

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	向坂正佳 守山市教育委員会教育長、大崎裕士 守山商工会議所会頭、眞下 忠 神港精機株式会社代表取締役社長、松浦 博 滋賀医科大学副学長、亀田晃巖 唯明寺住職（元学校法人立命館常務理事）、渋谷成子 立命館守山早苗会相談役、堀井美津江 立命館守山中学校・高等学校PTA会長、高山 茂 立命館大学理工学部長、久野信之 学校法人立命館常務理事
	委員会開催日程 主な議題	・授業視察 ・学校報告（2020年度教育活動の成果と課題） ・意見交換
	評価、改善事項	・ICTを活用して個別学習・協同学習が効果的に行われている授業が多かった。 ・学力だけでなく倫理観や社会性、感謝の心を持つ生徒に育てるために、保護者の立場から連携したい。 ・教育実践を守山市・滋賀県に普及し、全体の教育レベル向上への貢献を望む。 ・学園の教学理念、世界を変えるために学ぶという志・大目標を全教員・全生徒で共有し、立命館守山の存在意義を明確にすべき。